

## 《病院船とは何か?》参考として (I)

第一次世界大戦中、病院船は、戦闘地域間で起こった深刻な紛争や深刻な事件にもかかわらず、使用需要が大きく増えていきました。ほとんどの場合、乗客船は医療輸送用に改造転用されました。第二次世界大戦は、戦病者救済目的のために特別に設計された病院船が建設された結果、戦傷、戦病患者の収容が大幅に改善された。つまり太平洋戦争では戦地が遠く、病院が不足していたため、旧日本軍（陸軍・海軍）も、米軍はもちろん実際に海上を航行する病院船に運ばれ、完全な医療と外科的治療を受けながら母国に搬送されることができました。

病院船の国際的な法的定義は、1949年8月12日、ジュネーブで行われた「海上における傷病者の病気の改善に関する条約 (II)」に記載されている。簡潔にするため、当時のジュネーブ条約を「第二条約」といいます。この条約第22条には、「軍隊の病院船、すなわち、負傷者、病人および難破船を支援するために、特にそれらを治療し、運搬することを支援する目的でのみ、Power Systems によって建設または装備された船舶は、その船舶が使用される日の10日前に紛争の当事者にその名称と説明が通知されたことを条件に、常に尊重され保護されなければならない。総トン数、幹から船尾までの長さ、マストとファンネルの数。第41条では、「武装勢力の指揮の下、白地に赤十字の紋章を、旗、銃床、医療機関で使用されるすべての装備に表示するものとする。赤い十字架、赤い三日月や赤いライオンと白い地面の太陽の代わりにすでに象徴として、これらの紋章はまた、本条約の条件によって認識されています。

また、第43条では、「全ての外面が白くなければならない」ということを要求している。可能な限り大きい1つ以上の濃い赤い十字は、船体の両側と水平面に塗装して表示しなければならない。海と空からの視界。本質的なことは、船舶が病院船であることができるだけ明確でなければならないということです。同様に、「暗赤色」への言及は、明らかに、赤い十字が他の陰のものであった船舶が保護されないことを意味するものではない。これは、優れた色のコントラストを提供することによって浮遊病院の効果的なセキュリティを高めることを目的とした推奨に過ぎません。レコードから、最新のマーキングシステムがないことは、第二次世界大戦中の病院船舶に対する攻撃の大部分が原因であることが明らかです。

それにもかかわらず、“病院船”には厳密で正確な定義はなく、[病院船籍 \(HSI\) 艦隊登録簿](#)に記載されている船舶はここには含まれていませんが、ここに含まれる船舶の一部は HSI リストには含まれていません。HSI リストは、主に特定の国または組織の下で、フラグが立てられ、登録され、公表され、および/または運営されている医療/ヘルスケア目的の船舶/船の包括的な目録の試みである。This HSI のリストは、イタリアの [San Giorgio](#) クラスの小型ドック着陸船を「技術的には病院船ではなく、必要に応じて急速に

災害救援（特に地震）に変換する目的で設計された病院船ではない」としています。しかし、これはすべての水陸両用船に当てはまります。

現在、病院の船舶は、便宜上5つのタイプに区分されています。

1. **病院発足** - 少なくともボリビア、ブラジル、カマロン、チリ、ペルー、タイを含むいくつかの国々が、河川や湖沼に住む地元住民に医療支援を提供する小規模な病院発掘活動を行っています。これらの河川と湖沼の工芸品は海が行き渡るものではなく、国の海軍またはその他の政府機関によって運営されている可能性があります。ブラジルの船舶のうちの2つは、民間の病院船の伝統的な緑色の十字マークを持っています。



2. **AHL - 小規模医療支援船** - インド、インドネシア、メキシコの少なくとも3カ国で、人道援助医療サービスを提供するために装備されている海洋軍用船舶を運営するとともに、国内主権プレゼンス機能を果たしている。これらの船舶は主に病院船としては機能せず、国際法に基づく病院船でもありません。これらの船のうち、インド船とメキシコ船は白でも特製の標示もありません。インドネシア船は白ではなく、大きな赤十字で表示されていますが、武装しており、国際法上病院船としての保護を失っています。



3. **APH - 人道輸送、避難** - ドイツ、英国、中国の3カ国は、戦闘犠牲者救援と人道支援医療の両面を支援する大規模な多目的水陸両用支援船を運営しています。これらの船舶は主に病院船としては機能せず、国際法上の病院船としても指定されていません。



4. **AH - 民間病院の船舶** - 現在、全面的に2つの民間の病院船があります。スペインの労働省は、スペインの漁船を海で支えるために Juan de la Cosa を運営しています。マーシー・シップス・インターナショナルはアフリカの港湾で医療援助を提供する NGO アフリカ慈善事業を運営しています。



5. **AH - 病院船** - 現在、ロシア、中国、米国の3カ国が病院船を運営しています。0b' bクラスの3つのロシア船は、商業憲章のために提案されているが、近年はほとんど使用されていない。米国はT-AH-19 Mercyクラスの2つの非常に大きな病院船を運営しています。1990年代、中国は2,3隻のQiongsha級の攻撃輸送機関を病院に輸送し、最近ロシアから0b' bクラスの船を購入した可能性がある。PLAの最初の新しい大型病院船は、2007年8月29日に広州で発足しました。2008年8月に、Type 920病院船が海上試験を成功裏に実施したと報告されました。これは、世界で2番目に大きい病院船で、アメリカの2本の船に続いて、中国に水陸両用の操作をサポートするための大きな新機能を提供しています。

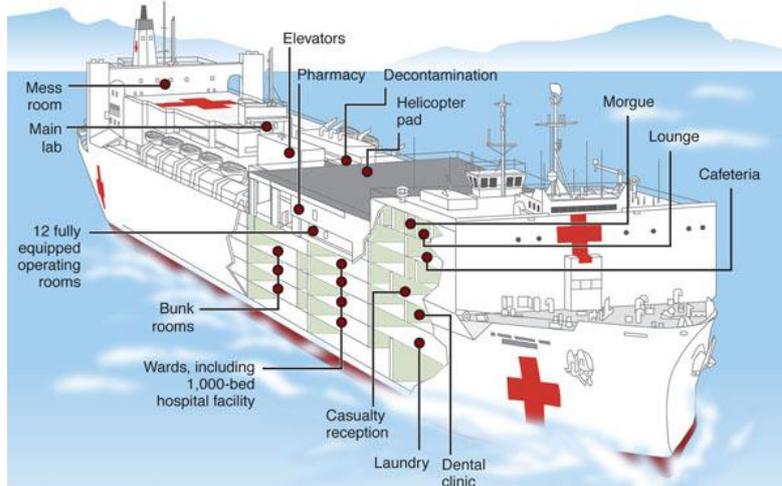


参考:

[https://translate.googleusercontent.com/translate\\_c?depth=1&hl=ja&prev=search&rurl=translate.google.co.jp&sl=en&sp=nmt4&u=http://www.globalsecurity.org/military/world/hospital-ships.htm&usq=ALkJrhOKK-TmFTwOjyVbDlxDBBP7ILFvg](https://translate.googleusercontent.com/translate_c?depth=1&hl=ja&prev=search&rurl=translate.google.co.jp&sl=en&sp=nmt4&u=http://www.globalsecurity.org/military/world/hospital-ships.htm&usq=ALkJrhOKK-TmFTwOjyVbDlxDBBP7ILFvg)

## Floating hospital heads for Haiti

USNS Comfort leaves Baltimore with a crew of more than 600 for earthquake-stricken Haiti. The ship is expected to arrive offshore of Haiti Jan. 22 for an open-ended mission.



### Characteristics

- Length: 894 ft. (273 m)
- Displacement: 70,473 tons, full load
- Beam: 106 ft. (32 m)
- Speed: 17.5 knots

### Other facilities

- CT scanner
- Two oxygen-producing plants
- Four X-rays
- Optometry lab
- Up to 5,000 units of blood

### Staff

- 65 civilian mariners
- 1,215 medical and support personnel

### Comfort's previous deployments

In service since 1987; kept in reduced operating status in Baltimore when not deployed

#### Operation Desert Shield/Storm

Sept. '90-March '91  
Gulf War; Treated 8,700 patients; 337 surgical procedures performed

#### Operation Sea Signal

May-August 1994  
Haitian/Cuban migrant interdiction operations

#### Operation Noble Eagle

September 2001  
Provided logistics service to disaster relief workers after the Sept. 11 attacks on World Trade Center in New York City

#### Operation Iraqi Freedom

Feb.-June 2003  
Served as a floating trauma center during Iraqi war

#### Joint Task Force Katrina

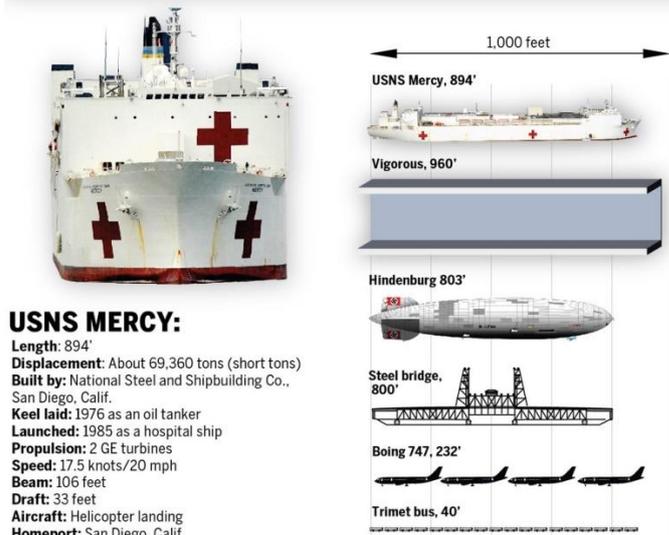
Sept.-Oct. 2005  
Assisted in Gulf Coast recover efforts; personnel saw nearly 1,500 patients

Source: U.S. Navy

© 2010 MCT

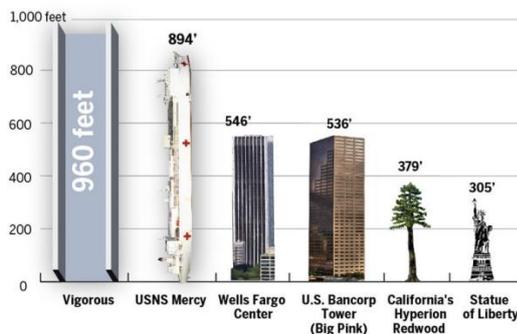
## 《病院船とは何か?》参考として(Ⅱ)

前ページで紹介の米国米海軍USNS Hospital Ship(T-AH-19) Mercyクラスの2つ世界最大の病院船を運営しているが、湾岸戦争以後は大きな戦地出動はない。年間の内、半年はドックでメンテナンス。残りの半年は、人道支援・災害救援HADR (Humanitarian Assistance Disaster Relief: HADR) 出動、すなわち平和活動を主任務にしています。



### DRYDOCK:

**Name:** Vigorous  
**Dimensions:** 960' long, 70' tall, 228' wide  
**Weight:** 26,880 tons (short tons)  
**Lifting capacity:** 80,000 long/89,000 short tons  
**Built by:** ZPMC Qidong shipyard in Shanghai, China  
**Cost:** \$40 million to build, \$10 million to deliver  
**Swan Island arrival:** August 25, 2014



MARK GRAVES/THE OREGONIAN

災害発生時に世界はアメリカの海軍のリーダーシップに依存する傾向が強い。空と陸と海をカバーするアプローチ体制を保有し、救援コールに即応できるロジスティクス能力に加

えて、CBRNE含む様々な災害ケースに対応する装備の研究や人材育成ノウハウを備えています。またHADR（人道支援・災害救援）をサポートするボランティア育成にも、ユニークな資格Disaster Management & Emergency Preparedness course (DMEP) 教育で人材育成を怠っていないこともアメリカに依存する証左であろう。特に海軍はグローバルなプレゼンスと水・陸両方のアプローチ機能を持っている。陸上支援に偏った日本の災害支援のあり方と根本から異なります。

災害大国であり、海洋国でありながら海からの医療支援を311後も軽視する伝統は改まっていない。はたして、HADR（人道支援・災害救援）は、装備さえ整えれば完了するのかというと、装備だけを整えても機能しない。被災した人たちに奉仕する他者貢献哲学や慈悲の精神など、人間の苦しみに寄り添うケアを提供する『HADRドクトリン（行動哲学）』がベースミッションになれば機能しないとしている。それこそが被災した国の地域を安定させる重要なHADRサービスの神髄だといわれます。

### 「トモダチ作戦」の回顧と課題

2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災の「トモダチ作戦」に参加した米海兵隊将校の多くが、日本が水・陸両用アプローチ能力を高める発想が乏しく、脆弱であることが話題に上ったと証言している。「もし、…ならば…は」、事後に通用しないのはもちろんであるが、「大震災当時、もし日本に海からアプローチする水・陸両用能力を平時から活用する発想と装備の充実が存在していたならば、多くの人々の命を救うことができたにちがいない」。東日本大震災が発生した当時、沖縄を本拠にしていたアメリカ海兵隊の実働部隊本隊「31MEU」は、東南アジアで活動中であった。そのため、被災地救難支援活動へ緊急展開できたのは、ヘリコプターや輸送機を中心とする留守部隊であった。留守部隊は翌日の3月12日から支援活動を開始し、14日には仙台に前進司令部を設置し、海軍や空軍とも協力して本格的支援活動を開始した。いわゆるトモダチ作戦である。16日には、海兵隊と嘉手納から派遣された空軍特殊戦術飛行隊によって仙台空港が使用できるようになり、一週間後の17日には東南アジアから揚陸艦に分乗して急行してきた「31MEU」も秋田沖に到着し、支援活動を開始した。やがて太平洋側に回り込んだ「31MEU」は揚陸艦から被災地に、揚陸艇やヘリコプターでアクセスして、本格的な救援支援活動に従事している。

### 海兵隊的能力とは何を意味するのか？

「海兵隊的能力」とは、どういうことなのか？

- 一つ目は、「揚陸艦などをベースにして海から陸にアクセスする水陸両用能力」、
  - 二つ目は、「陸上・航空・海上の戦闘・補給資源（装備・人材）による統合運用能力」、
  - 三つ目は、「様々な突発事案に即応した緊急展開能力」の三つの軍事的能力のことを指す。
- 3.11当時の日本にそれらの能力があったのかというと、水陸両用能力は、「ほぼゼロ」、

水陸両用能力と密接に関連する統合運用能力も極めて低調であり、緊急展開能力のうちでもアメリカ海兵隊CBIRF（化学兵器、生物兵器、放射性物質兵器、核兵器、爆発物事案に対処する即応部隊）のような対放射能汚染対処即応能力もほぼゼロという状況だった。

### 装備調達だけで目的は達成できない

大震災から5年を経た現在、被災地復興においてもかさ上げ地造成や防潮堤建設という「ハードウェア」重視で、被災者の心のケアやコミュニティ形成といった「ソフトウェア」の立ちおくれが指摘されている。それと同じく、(HADR)は「人道支援・災害救援」活動の総称であるが、一般的に日本で考えられる災害派遣とは異なる。人為的な災害（内戦等）による被災者に対する支援も含む、幅広い作戦概念であり、文書によってはHAとDRは同じものとして取り扱っているものもある。ここでは人道支援・災害救援活動の総称として、HADRを位置づけを紹介する。つまり、水陸両用能力の構築は決して装備優先であってはならない。海からのアプローチの重要性にしても、観念的に唱えるだけでは説得力に欠ける。

「大規模災害時になぜ、水陸両用能力が必要なのか？」「どのようにして水陸両用能力を用いるのか？」といったHADR「ソフトウェア」の視点から再検討を加え、組織的（見直し含む）対応が必要だからである。

### 「コーチのいないスポーツチーム」を想像できるか？

理由1. 日本には包括的な危機管理のシステムがない。

理由2. 包括的危機管理システムの欠落により、調整されないまま、膨大な作業が行われ、政府のコストを増やし、災害時の政府の行動能力を低下させる原因となっている。

理由3. 即応能力の低下は突然の大災害の発生に際し、人的物的損害発生危険性を高めている。

理由4. 日本には国レベルでこの課題に対応できる人的物的資源が十分にあるにも関わらず、そうする政治的決定がなされない。

《総括》日本に必要とされる危機管理のあり方について、「危機管理の問題は、国、都道府県、市町村の各レベルにおいて大きな政治・政策課題として論じられていく必要がある」。

日本は、米国の危機管理に相当する（同一なものである必要はない）、ICS（インシデント・コマンド・システム）：コーチの役割を果たす国以外の県市町村共通のルール・手順・規範を統合して、危機管理の包括的な仕組みを作り上げる急務といえます。なぜなら、国民の大半は我が身に直接関係のないことに関心が薄く、危機に対する意識も戦時生れ、戦後すぐのベビブーマーと40代世代、また20代世代とは全く異なるだけでなく、メディアの関心も薄く、次のような観点からも指摘できます。

①政府の防災関係機関（専門専従機関）は十分な権限に加えて、予算と職員数を備えるべきである。危機管理に当たっての国レベルの包括的対応を行う中で、災害準備、応急対応、復興、予防という危機管理の要素を結びつけることができます。

可能であれば、大統領直属の下で米国・FEMA が設立されたときと同じような形で、日本の災害対応組織を創設していくことが望まれます。

米国では政府の様々な機関の職員をまとめ、新しい危機管理機関を誕生させたが、日本でも例えば、内閣府災害担当部局、内閣官房危機管理室、総務省消防庁を統合し日本危機管理庁の中核としていくことが考えられます。

②政府の災害応急対応計画には、包括的で、使い勝手がよく、現実的で、明確に且つ具体的に関係政府機関の災害応急対応時の責務と仕事の中身を書きこむべきでしょう。

③国、都道府県、市町村の各段階で十分な専任職員を配置し、大災害に備えて計画を作り、応急対応できるようにしておくべきと思われます。

日本政府の各省庁にも危機管理担当の専任職員を配置しておくことが必要である。

④国、都道府県、市町村それぞれの段階で、危機管理に関わる技術の専門性を高め、技術を確立し、維持発展させる仕組みが必要です。

⑤対応策： 防災関係機関間の相互の報告会（年1定例シンポ化）

日本の危機管理に関する問題要因の一つとして、他の機関の災害時の動きをお互いに知らないという問題がある。それぞれの機関が、大規模災害時の対応について自らの計画や対応能力の水準について、一連の報告会を催し横のレベルを高めていくべきです。

⑥包括的な訓練プログラム

日本の政府機関や病院などは頻繁に災害応急実訓練(disaster response drill)を実施しているが、その多くは包括的な災害応急模擬訓練(disaster response exercise)として行われていません。

特に、災害医療には図上訓練を実施することが極めて重要で、かつ医療者以外の防災に関し責任のある機関がこの模擬訓練を共同実施し、日常的な意識の改革を促していくことが必要となっています。

⑦日本版危機管理訓練プログラムの開発人材の養成

日本には危機管理専門家の教育訓練を行う体系的なシステムがありません。

災害大国でありながら、大学の災害管理・あるいは医学部の災害医療講座もほとんど無きに等しく、危機管理人材の育成には程遠い状態を長年放置しています。

育成された人材を活かすには、政府職員の知見、消防庁消防大学の講座などの機能を活用し、政府全体として危機管理教育訓練プログラム開発センターを設置し、恒久的に専門人材を供給することが災害マネジメントに不可欠と思います。

⑧日本の危機管理の専門性を高める

日本において、危機管理が片手間の仕事、一時的な任務として扱われる限り、本当の意味で危機管理の目標達成は期待できない。政府、都道府県、市町村ともに常勤の危機管理専門家を確保し、2年ごとの人事ローテーションで異動させるのではなく、職員の交替制勤務をきちんとした形で導入し、一定の期間、危機管理の分野で専門性を涵養できる

制度に改めるべきである。

### 《病院船とは何か?》参考として(Ⅲ)

一、災害医療の定義(①自然災害・②人為災害(NBC、感染症等)・③特殊災害(原発事故等福島例)を明確に法制化するとともに、病院船をどう定義するかも重要だと思います。したがって、定義をわかっておられない議員も散見される現在、明確な定義を骨格に据える必要性が高じています。

例えば、厚生労働省は以前、護衛艦を病院船として使うには、病室と思われる場所が、医療法に基づく基準を満たす必要があると指摘していました。また、1995年の阪神淡路大震災を契機に、海上保安庁にヘリ搭載甲板を備え、はじめて医療機能を備えた大型巡視船「いず」が新造されました。しかし、一度もその医療機能は使われていません。東日本大震災のときも、荷物を運んだだけに留まっています。なぜ、このような現状が黙視されているのか?

一つには、病院または診療所の設置認可を得られていないこと。

二つ目は、医療機能として認められないため医師が乗船できないから、医療行為ができないこと。加えて、最低限の医療機器・レントゲン装置を設置するためには、放射線の取り扱いの規則があり、これら全て満たさないと病院船とは認められません。

これまで自衛隊の野戦用医療コンテナを海上自衛艦に積みれば良いとした訓練(三重県尾鷲沖「しもきた」)など、内閣府の安易な方便方策で訓練に臨んでも、医療コンテナユニットが病院として認可された施設など国内の何処にもありません。これでは国民の役に立たないのは当然。日本は国民皆保険制度が最も進んだ先進国です。震災で救済しなければならぬ国民のいのちに関わる重要なミッションが、病院と認められなければ、平時に離島医療を提供することもできません。理由は、船が病院船として認可できないため医療保険の適用にならないからです。こうした課題解決の案として、スクラップ・アンド・ビルドの積極的推進する新しい考え方も導入できれば(例えば)、既往防災センターを改組し、仮称:広域災害医療研究専門の病院機構を新設して、教育訓練プログラムを体系化するモデルを日本の地方自治体に提供するとともに、教育訓練船(病院船)を併設して離島・EEZ 海事従業者の健康管理・巡回医療訓練、広域災害医療への活用も含む、装備(ハード)の研究・開発を推進することが可能になるのではなからうかと思えます。

#### 災害医療体制強化の法整備検討PT~法制化の目標《定義》の構築(案)

定義:病院船とは「病院が船の中にあるのが病院船(名詞)＝病院として造られ病院の役割(医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)に基づく病院構造基準を満たし、十分な医療行為の役割を果たす船舶)

病院船とは、航行浮遊式の治療施設または病院としての機能を第一優先に担う船である。  
病院船(名詞)＝病院として造られ、病院の役割を果たす船舶。

注) 航行浮遊式=船舶とは、自力航行ができ、電源・水・情報通信機能、ライフライン完備、司厨機能、宿泊生活施設、大規模ロジスティクスなど、自己完結できる機能がある海洋（河川）移動交通機関を指す。軍用船舶には、歴史的な艦種変遷を経て、軍事目的別に艦艇も多種多様化している。民間船舶も産業革命以後の近代化の歴史とともに発展を遂げ、産業用途別・搭載品目ごとに船種が多様化している。



我々MHIは、継続性・持続性の高い災害救援活動を提供するために、不足した不備を補う災害医療強化の法制化を最重要課題にとらえて取り組んでいます。

公益社団法人モバイル・ホスピタル・インターナショナル